

【不祥事根絶に向けた本校の決意】(行動基準)

私たちは、生徒が困ったときに話をしたくなる「頼りになる先生」です。

- 1 事務より生徒のために行動します
- 2 言葉づかい等、生徒の手本になります
- 3 いつも笑顔で機嫌の良い人になります。

令和3年度不祥事根絶のための行動計画

呉市立和庄中学校
作成責任者 校長 小林浩樹

区分	本校の課題	行動目標	取組内容	点検方法・時期
教職員の礼儀やマナーの確立	○ 日常的な多忙感からゆとりを持たず、自分のことで精一杯になってしまう場面がみられ、生徒や来校者への対応がおろそかになる。	○ 職員室での来校者や生徒へ気持ちのよい返事・あいさつをするなど真摯な対応を行う。 ○ 業務を精選することを通してゆとりをもつ。	○ 教師が率先垂範して声を出す。 ○ 否定的でなく肯定的な声かけを行う。 ○ 聖域を設けず業務の抜本的な見直しを図る。	○ 毎学期、生徒アンケートを実施する。 ○ 職員の在校時間を毎月確認する。
学校組織の機能化	○ 教職員間の年齢及びキャリアの差が大きい。	○ 職員室で、何気ない日常会話も積極的に行い、どんなことも安心して相談できる家族や親戚のような職場の環境をつくる。	○ 日報(不祥事関連記事等を裏面に印刷)の発行、特に配慮を要する生徒の動静ボード設置等、必要な情報が効率的に全職員に周知できる工夫を行う。 ○ 困難な生徒指導は、個人だけでなく全校集会や学年集会等、チームで指導する。	○ 職員アンケートを実施する。
相談体制の充実	○ 発達障害等、特に配慮を要する生徒への対応に課題がある。	○ 毎学期一回以上は生徒との個別面談を実施する。	○ 「アセス(学校環境適応感尺度)」の結果のもと、スクールカウンセラーと連携し、個別の教育相談を積極的に実施する。	○ スクールカウンセラーを研修講師として、指導・助言を得る。